



REAL RACING

日程:公式予選 2017年09月09日(土) / 決勝レース 09月10日(日)

会場:オートポリス(4.674 km)

天候:公式予選/晴れ コースコンディション/ドライ

決勝/曇り コースコンディション/ドライ

気温:公式予選/ 30°C 路面温度/ 44°C(13時40分時点)

決勝/25°C 路面温度/33°C(13時00分時点)

9月9日(土)・10日(日)、2年ぶりの開催となった大分県オートポリスにおいて、全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦が開催された。前戦ツインリンクもてぎに続き、タイヤは2スペック制で、土曜と日曜に使用できるタイヤは、新品ミディアム、新品ソフトタイヤ共に2セット、ユーズドタイヤ2セット、そして公式予選Q1ではミディアムタイヤのみを使わなければならないというレギュレーションで行われた。

前戦でマシンの速さを見せたリアルレーシングはオートポリスを得意とする塚越広大と共に、新たな気持ちで勝ちを目指し今大会に挑んだ。

9月9日(土)公式予選日。午前中のフリー走行では、山間部にあるオートポリスらしい涼やかな天候となったが、午後に入ると夏の名残を感じる天候に変化、公式予選Q1は定刻の13時45分に気温30°C、路面温度44°Cというコンディションの中で開始された。#10 塚越広大はユーズドタイヤを装着し、セッション開始と共にコースイン。まずは、コースコンディションを確認し、翌2周目には前半のアタックラップへと入る。そこでベストタイムとなる1'29.870をマークした塚越。その後一度マシンをピットに戻し、Q1残り7分を切ったところでニュータイヤに履き替え、コースインする。マシンのコンディションを確認しつつ、タイヤを温めアタックラップに入った。だがアタック中の後半セクションに入ろうというところで、コースアウトを喫し、マシンをクラッシュさせてしまう。幸い塚越に怪我などはなかったが、コースサイドにマシンを止め、マシンの回収を待つこととなり、予選をここで終了した。

9月10日(日)決勝日。前日のクラッシュによってダメージを受けたリアルレーシングのマシンはメカニックの懸命な修復作業によって美しい姿を取り戻し、決勝日を迎えた。

13時05分決勝レースがスタートし、最後尾からのスタートとなった塚越は、マシンの速さを信頼しソフトタイヤを装着し出走した。前半での巻き返しを図るべく、緊張感の漂うオープニングラップの1コーナーへ進入した塚越。その1コーナーでは塚越の前で他車両同士のアクシデントが発生する。そのアクシデントを横目に、危なげなく1周目を終えた塚越は、オープニングラップを終えると12番手までポジションアップさせていた。その後も当初の目論見通り素晴らしいオーバーテイクを魅せ、次々とライバルマシンをパスしていく。他車のピットインも始まりだし、16周目を終えると4番手まで浮上する。



REAL RACING

前回のもてぎ大会でリアルレーシングが行った2ピット作戦。この作戦により今大会は他チームも2ピットインか1ピットインかの作戦を練り、どのチームがどの作戦をとるのかわからない状況の中レースは進んでいた。25周目、1ピット作戦をとったリアルレーシングは、塚越にピットインの指示を出し、給油とミディアムタイヤへのタイヤ交換を行い、再度塚越をコースに送り出す。11番手でマシンをコースに戻した塚越は、チームと共に他チームの動向を探りながら走行を続けた。39周目を終わると全車が規定のピット作業を終え、その時点で塚越は9番手を走行。他チームの状況が見えた中、後は前車の隙を狙い、入賞を目指して、ポジションアップを狙っていく。しかし、そのまま規定周回の54周を終了し、残念ながら9位のままでチェッカーを受けることとなった。

今回も、入賞まであと一歩届かず9位という結果となりましたが、やはりマシンの速さを実感できるレース展開であったと思います。レースは残り2大会。今の速さを今シーズンで結果に残すべく、次戦スポーツランドSUGO大会では予選、決勝共に皆さまにご満足いただけるレースをお見せできるよう戦って参ります。皆さまの変わらぬご声援をよろしくお願いします。